会社探訪 18

技術革新こそ経済成長の原動力

備南工業株式会社

Number one

代表取締役社長 小坂章則 氏

「チューチュー」と聞いて郷愁を感じる方も少なくないだろう。果汁やコーヒー飲料などをポリ容器に詰め、冷凍したもので、吸い口からアイスを"チューチュー"と吸う氷菓子のことだ。

あの果汁をポリ容器にどう詰めたか考えたことがあるだろうか。容器へ中身を充填する作業は機械で行うのだが、そのポリ飲料充填機で世界一のシェアを誇るのが、今回紹介する備南工業㈱（本社＝福山市新浜町）だ。

福山が誇るナンバーワン企業の1つである。

「機械と容器を両方扱うことが強み」

『うちの1番の強みは、充填機と容器を両方扱っていることです」と話すのは同社の小坂章則社長と児玉匡量専務だ。

大抵、充填機は充填機、容器は容器で棲み分けをして扱っているが、備南工業の場合は、成形から充填まで一貫して行える。このような企業は、実は世界中を見渡してもないそうだ。元々、機械の方からスタートしたが、現在では機械と容器の取り扱いが半々ぐらいの割合だという。そのことを特にアピールしているわけではないが、いつの間にか知れ亙っているようで、ある日突然、メキシコのキャンディーメーカーからジュース用充填機の取引で声がかかったこともある。

国内は大手の食品、菓子のメーカーをはじめ、多くの企業と取引があるが、海外でもカナダ、米国、韓国、インドネシア、ヨルダンなど約10カ国程度の企業と取引がある。取引先の中では、台湾で有名なセンベイを製造している企業が、中国本土の沿岸部から内陸部へ次々と工場進出している。いわば備南工業の充填機が中国全土をも制覇しているようにも思える。

海外との取引について、小坂社長は「商習慣は違うかもしれないが、ビジネスはどことしても同じ」と話す。声がかかればその日のうちに見積もりを出すなど、とにかく早い対応を心がけている。

専務取締役 児玉匡量 氏

「冷凍機械の製作販売がスタート」

同社は1947年（昭和22年）に、冷凍機械の製作販売等を行う鉄工所を個人創業したことが始まりだ。9年後の1956年（昭和31年）に、会社組織にするとともに社名も現在のものとした。そして、その頃からジュースなどをビンに詰める液体充填機の製造販売に乗り出した。

転機は昭和38、39年頃だった。世界的資本の巨大飲料メーカーが日本に上陸したことで、備後の飲料メーカーも甚大な影響を受け、次々と淘汰されていった。取引先がなくなっていったことから、備南工業としても新たな業態への転換を迫られた。そんな中でビン充填からポリ充填への転換を果たした。

「技術革新を常に模索」

元々、技術には定評があった。ビン充填の時代の昭和30年代。ビンの中にブラシを入れ、その先端から液体が出るという技術で特許を取った。その技術はポリ容器充填へも発展的に生かされている。充填機の原理は、容器の空気を抜きながら中身を落差を利用して入れるというふうに一見単純にも見えるが、実は入れる中身に応じて随分と必要な技術が変わってくる。

備南工業では現在、アイスクリーム、ジュース、豆腐、チョコレートなど6分野の充填機と容器を扱っている。その中にはゼリー製品や変わったところでは、昆虫のエサ用のミツの容器もある。それぞれの分野に応じた技術が必要なわけで、技術革新は常に同社の命題になっている。「技術は過去の経験の積み重ねだが、いかにそれを打ち破るか。そうでないと新しいものは出てこない」（児玉専務）というわけだ。

一例では、今年6月に実用新案登録を果たした、フルオープンタイプの豆腐のポリ容器がある。包丁を使わず手でワンタッチで開けることができる。何十回も試作を重ね、間もなく実用化のメドがつく。

容器1つ1つの徹底した品質管理

「今後は環境問題への取り組みが不可欠」

経営理念には「顧客満足」と「探求心」に加え、「地球環境を守る」ことを掲げている。スピーディーな対応は、まさに顧客満足度につながるし、常に技術革新に取り組む姿勢は探求心そのものだ。そして、環境への取り組み。小坂社長は「これからの企業は環境問題への取り組みが不可欠」と話す。

来年度から、川口工場（福山市東川口町）の屋根は全て太陽光発電となる。また、ポリ容器についても、廃棄したらそのまま土に還る成分解樹脂を用いた容器のテストも続いている。

「ものづくりのまち福山への誇り」

さて、アイスやチョコレートなど、子どもが好む製品の容器を扱っているだけに、少子化は同社にも少なからぬ影響を及ぼす。また夏向けの商品が多いため、冬場の対応も課題になる。上の世代をターゲットに、付加価値をつけた製品づくり、年間を通じて扱える製品づくりも見据える。最近力を入れた豆乳はまさにその代表例だ。

ものづくりのまち福山。小坂社長は「外へ出るとよくわかるが、こんな地域は他にない」と話す。地元の様々な技術を持つ人たちと連携して地域の核になれれば、そんなことも考えている。

（取材・文　大陽新聞　塩田　聡）

備南工業㈱

- 所在地 福山市新浜町1丁目2-7
- 電　話 (084)953-7788
- FAX (084)953-7154
- ホームページ http://WWW.e-binan.jp